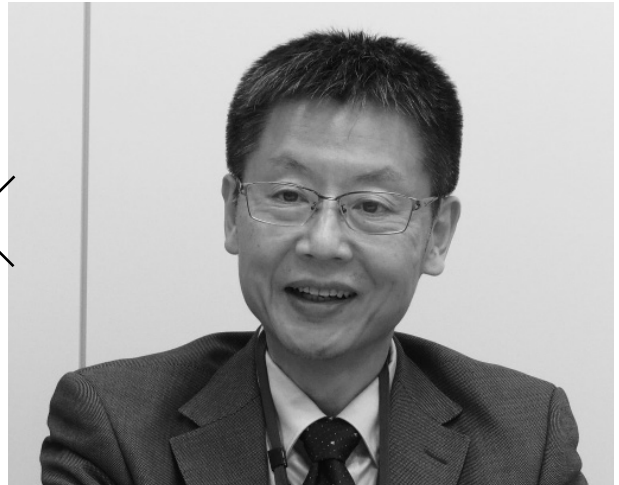
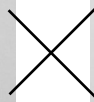


# 新理事長 藤来靖士先生に聞く、 協会の将来像。



## 藤来靖士先生

公益社団法人地域医療振興協会 理事長

## 杉田義博先生

日光市民病院 管理者

### 藤来靖士(ふじらい やすし)先生 プロフィール

埼玉県出身。1991年自治医科大学卒業。義務明け後も秩父郡大滝村の診療所に継続して勤務。2002年4月から地域医療振興協会職員として宮代福祉医療センター「六花」の開設から経営に携わる。2007年から東京ベイ・浦安市川医療センターへ異動。2012年、練馬光が丘病院の初代管理者に就任。2015年上野原市立病院へ異動。古里診療所、豊頃医院、与那国町診療所、山北町立山北診療所で勤務。2025年6月地域医療振興協会理事長に就任する。

### 杉田義博(すぎた よしひろ)先生 プロフィール

熊本県出身。1991年自治医科大学卒業。義務明け直後の2000年7月に地域医療振興協会入職。協会施設の代診、厚生労働省委託事業へき地医療情報ネットワーク担当、伊豆大島北部診療所勤務を経て、2004年4月東京北社会保険病院(現 東京北医療センター)総合診療科、老健さくらの杜施設長、2009年4月台東区立台東病院副管理者、老健千束施設長。2018年9月より日光市民病院管理者。

## へき地の診療所長が複合施設の 立ち上げに関わるまで

杉田義博(聞き手) 『月刊地域医学』リニューアル第1号を記念するインタビューは、満を持して、昨年地域医療振興協会の理事長に就任された藤来靖士先生をお迎えし、今号から編集長を務め

る杉田が担当します。まずは藤来先生のご経歴と、協会に入られた経緯からお聞かせいただけますか。

藤来靖士 私は平成3(1991)年に自治医科大学を卒業した14期生で、杉田先生とは同期です。出身は埼玉県で、義務年限最後の赴任先は秩父郡大滝村(現 秩父市)でした。人口2,000人弱、診療所は1つ、医師も1人、外来も在宅も地域に必

要な医療をすべて担う体制で、忙しくも充実した医師生活を送っていました。

杉田 まさに地域医療の最前線ですね。

藤来 それが性に合っていたし大滝の環境も気に入っていたので、義務明け後もそのまま2年間ほど診療所長として残りました。転機は突然でした。ある日、県の卒業生から「話があるから大宮に来てくれ」と呼ばれ、おいしいものでも食べさせてもらえるのかな、と軽い気持ちで行ったら吉新通康先生が待っていて、宮代町で複合施設を始めるので一緒にやらないか、と、「これからの地域医療はシステムで支える時代だ。その仕組みを一緒につくりたい」「君が適任だ」と言われ、戸惑いながらもその熱量に圧されてお受けし、平成14年4月から協会職員になりました。

杉田 吉新先生や協会のことはもともとご存じだったのですか。

藤来 お名前は存じていました。県人会に来られたこともありました。直接お話ししたことはなく、どこか別世界の人という印象でした。私は地元で診療を続けるつもりでしたから、協会とも交わることはないだろうと思っていました。

杉田 へき地医療から、宮代という都市部での複合施設運営への転換はいかがでしたか。

藤来 宮代福祉医療センター「六花」は、診療所、老健、通所リハ、訪問リハ(訪問看護)、居宅介護支援、保育園という6つの機能を備えた施設で、当時でも理想的な形でした。大滝を離れる少し前から基本構想の会議に参加し、平成15年10月のオープンを目指す1年半の準備期間、プロポーザルや名称公募、職員面接まで最初から関わりました。3学年下の石井英利先生が義務明けから加わってくれて、非常勤の医師も迎えて、

予定どおり開設できたという過程は、刺激的で本当に楽しかったですね。

杉田 へき地診療所とは環境も規模も違う中での運営には戸惑うことはありませんでしたか？

藤来 協会本部から派遣された職員が細かく計画を立て、収支計算をするなどして助けてくれたおかげで最初の半年こそ赤字でしたが、普通にやっていたら1年目からは黒字になっていた、という感じです。

杉田 それはちょっと。実は、その頃「藤来先生は1人当たり使ってよいトイレットペーパーの長さを測って管理しているらしい」という噂があったんですよ(笑)。

藤来 まあ、事実といえば事実かな。備品を選ぶときに5種類くらいあって、どれがいいかと言われたので、1人が使う長さから計算して単価が一番安いものがいいんじゃないか、と言ったら、それに尾ひれがついて広がったみたいです。今だったら、もう少しいのにしますよ(笑)。

杉田 その噂を聞いたとき、経営者として厳しいのはいいけど、一緒に働くのはちょっとな、なんか学生時代とだいぶ違うぞと思ってました(笑)。宮代で思い描いた地域医療と経営の両立に取り組んだのは、4年くらいですか。

藤来 はい。平成15年から19年までです。

## 協会職員として経験した、病院経営の厳しさ、難しさ

藤来 六花を離れる頃、協会では台東区立台東病院の開設準備が始まっていました。手伝ってほしいと言われ、家も近いし会議にも参加して、すっかり行く気になっていたのですが、ある日、